



丸野 隆大議員

選挙における投票率の維持向上策について

投票率低下の現状と課題

丸野議員

南阿蘇村の地方選挙投票率は全国的に高水準であるものの、2005年の86.1%から2024年の76.8%へと、20年間で約9.3%低下している。この低下は高齢化率の増加と強い相関があり、全国データでも75歳以上の投票率低下が身体的制約や投票所へのアクセス難に起因するとされている。南阿蘇村でも75歳以上の人口が25%に達し、投票所の削減も影響している可能性がある。

「選挙に行きたくても行けない方が増えている」現状を問題視し、村民の大切な参政権を守る対策を問う。

期日前投票の利用促進と乗り合いタクシーの活用

総務課長

現在の投票所は村内7カ所。バリアフリー対応、施設の広さ、投票事務員の確保の困難さなど、現実的な制約を総合的に考慮した結果である。投票所の数を増やすことは現時点では難しい。

近年増加している期日前投票の利用促進に力を入れ、現在運行している乗合タクシーの有効活用などにも取り組む。有権者が積極的に政治参加できる投票環境の整備を進める。投票率低下の要因として村民、特に若年層の政治への関心低下も認識しており、統計を取りながら今後の対策を検討していく。

「移動期日前投票所」と「期日前投票の名称変更」を提案

丸野議員

期日前投票への注力に賛同し移動期日前投票所の活用を提案する。総務省も推進しており、八代市など他自治体での導入事例もある。国費負担があり、公用車やスクールバスの活用により低コストで運用可能ではないか。

また、「期日前投票」という名称を「投票期間」に変更するのはどうか。「特別な投票手段」という心理的負担を軽減し、若い世代や高齢者も都合

に合わせて投票に行きやすくなると考えられる。

総務課長

「移動期日前投票所」については、現在、福祉施設や老健施設において施設長の承諾があれば投票所を設置できるが、今回は利用がなかった。今後は各施設機関と調整し、投票率向上につながるよう検討していく。

「投票期間」への名称変更については、関係法令を確認し、担当者と調整していく。若い世代が投票しやすい「柔らかい言葉」での啓発と投票環境提供に協力していく。

丸野議員

総務課の前向きな答弁に感謝する。選挙運動での経験から、「あなたに投票したいが、投票所が遠くて行けない」という村民の声が最も心に残っている。

「選挙権は国民の最も重要な基本的権利の一つ（総務省）」。身体的制約や交通アクセスが原因で投票できないのは人権にも関わる問題ではないか。投票率76.8%という高水準の裏に、大切な権利を行使できない村民が確実に存在する。実務担当課として、このような村民の声や人権を守るための対策を講じることへの考えを改めて問う。

総務課長

担当課としても、そのような意見があったことを認識している。投票に来られる施策を検討し、基本的権利を守りながら高齢者に優しい選挙投票ができる場を設けていきたい。ただし、これらは選挙管理委員会との調整が必要であり、議会にも協力を求める。

村民に寄り添う行政を目指す

村長

政治への問題意識を強く持ち活動することが、村民に政治を身近に感じさせ、投票率にも影響する。若い世代や地域の声を集め、行政としても政治の立場でも前向きな議論をしていきたい。「優しい行政を目指してほしい」という声が自らにもあった。村長として村民に寄り添う行政を目指していく。